

沖縄RESASチャレンジカップ2025

沖縄県うるま市における ハジチを活用した タトゥーツーリズムの提案

—観光振興と伝統文化継承の両立を目指して—

名桜大学 名桜大学RESAS研究会 ハジチチーム

米須 歩夢 野崎 聖華

目次

ハジチ(針突)とは
沖縄県うるま市の概要
沖縄県うるま市の現状と沖縄観光の概要
観光における魅力
観光における問題
要因考察と解決策の方向性
企画コンセプトの仮説
夕 투어に対する地域による価値観の違い
日本における夕 투어に対する価値観の時代
による移り変わり(江戸～昭和後半)
日本における夕 투어に対する社会的規範
現代施術者へのインタビュー
ハジチの現代的解釈
具体的な施策案
期待される効果と懸念点
どのように地域の理解を得るか・先行事例
提案内容のまとめ

目的

- (1)沖縄県うるま市への来訪の動機を生み出し、観光産業による地域の活性化を図る。
- (2)沖縄の伝統文化「ハジチ」に対する正確な解釈を広め、認知度向上をはかり、保存・継承に繋げる。

私たちについて

名桜大学

沖縄県北部に位置する公立大学
学生数 2,386人(令和7年5月1日現在)
沖縄県北部地区の産官学連携において重要な役割を担っている。

名桜大学 RESAS研究会

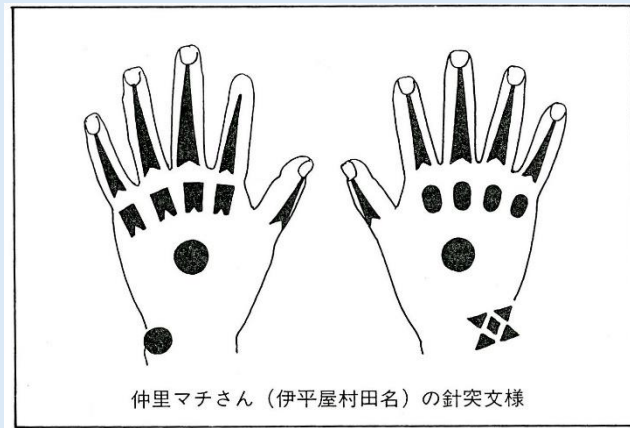
2025年度のメンバーは11人。
主に沖縄県北部地域の活性化を目的とし、大学祭や地域のイベント等で地域資源の認知度向上に向けて活動を行っている。

※本資料内では「夕 투어」と「入墨」を同義とみなす。

ハジチ（針突）とは

かつて琉球弧の島々にあった女性の手に施す入墨風習

ハジチャー（針突師）と呼ばれる施術者により、数十本の針と墨を用いて**若い女性**に施された。当時、沖縄の女性達はハジチという形で、様々な願いや祈りを手に込め、ハジチを施した。1990年代には当時のハジチを施した女性を見かけることはなくなり、**ハジチは完全に消滅した**とされている。



【写真出典】井市川重治「南島針突紀行」

施術理由

成女儀礼・魔除け・結婚の証明・
子孫繁栄・極楽浄土への願い・
島外へ連れ出されることを防ぐため など

衰退理由

明治政府による入墨禁止令（1899年）

- ・かつては**成人女性の象徴であり美しいもの**とされていたが、規制により**醜いものや恥**として認識が広まる。
- ・アメリカ統治下（1945年～1972年）での価値観の西洋化により、さらに否定的に捉えられるようになった。

文様

地域・時代・身分によって異なる文様が施された。

イチチブシ

五つ星をかたどった模様
意味：極楽へ行ける



アマン

ヤドカリガニの形を表す模様
意味：魔除け

社会の変化が
ハジチに対する大衆の価値観を変え、
文化の消滅へと繋がった

沖縄県うるま市の概要

- ・沖縄県本島中部 東海岸に位置。北方および東方海上には有人・無人を含めて8つの島を有す。
- ・2005年4月1日に2市2町が合併し「うるま市」が誕生。
- ・沖縄県市町村別人口ランキング3位 (127,296人, 2025年12月1日現在)
- ・うるま市を舞台にした漫画作品『沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる』は、2025年1月からテレビアニメが放送され話題。
- ・2025年7月8日～28日にはうるま市×沖縄ファミリーマート『地域ド密着プロジェクト』として県内のファミリーマートでコラボ商品を販売。



沖縄本島中部東海岸に位置

【出典】うるま市公式ホームページ



←うるま市を舞台にした漫画作品

『沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる』

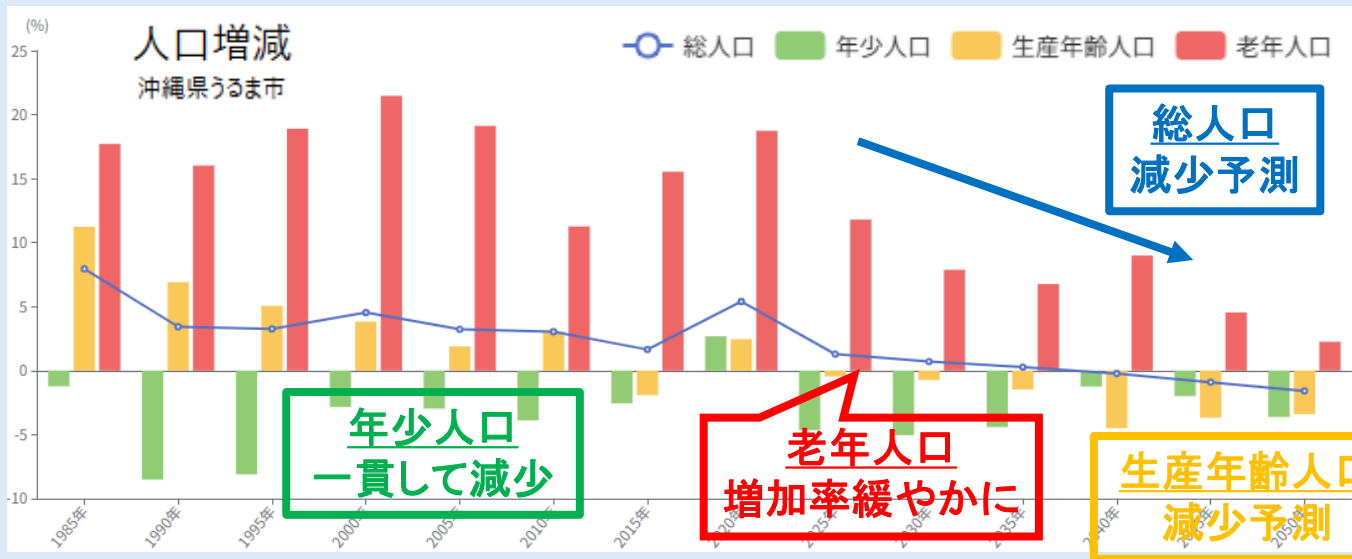
うるま市×沖縄ファミリーマート『地域ド密着プロジェクト』→



世界遺産 『勝連城跡』

【写真出典】うるま市観光物産協会 公式WEBサイト、TVアニメ「沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる」公式、株式会社沖縄ファミリーマート「地域ド密着プロジェクト」第3弾 うるま市との取り組み、世界遺産勝連城跡 公式ホームページ

沖縄県うるま市の現状と沖縄観光の概要



日本の少子高齢化と人口減少の典型的なパターン

地域の活力を維持・再生する

観光産業の発展が解決策の一つ

【出典】RESAS人口マップ・人口増減分析

(総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」)

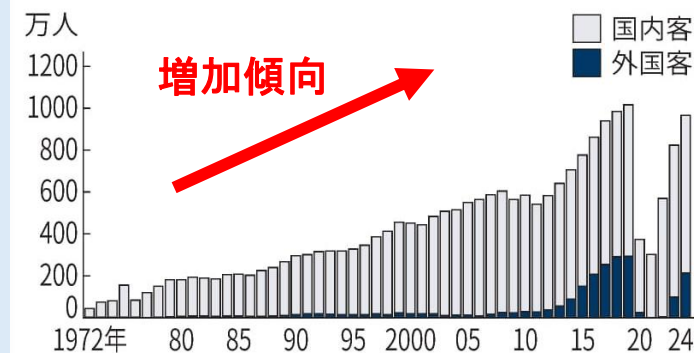
沖縄観光の目指す将来像／VISION

「世界から選ばれる持続可能な観光地」

—世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」—

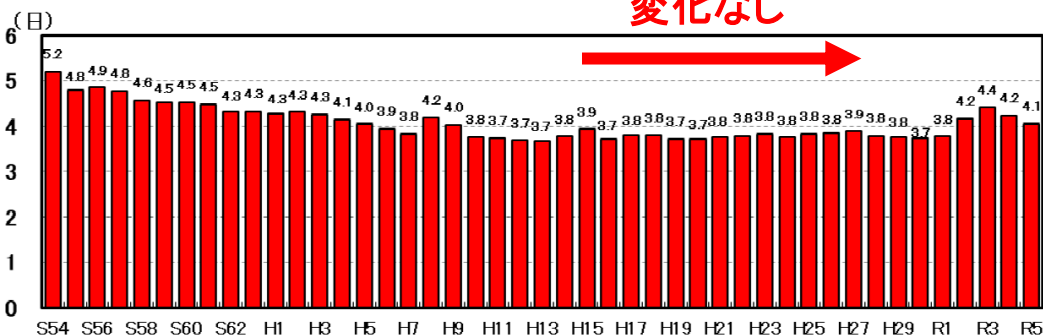
【出典】第6次沖縄県観光振興基本計画

沖縄県入域観光客数増加の一途を辿っている
(コロナ禍を除く)



【出典】日本経済新聞

【図2】平均滞在日数の推移 (年度)



課題 滞在日数の短さ

令和5年度の国内旅行者の滞在日数は4.06日と伸び悩む。短い滞在日数は、観光客1人当たりの消費額にも影響を与え、観光収入の伸び悩みを招いている。

【出典】沖縄県令和5年度版観光要覧

観光における魅力

美味しいもの・特産品

もずくや海ぶどうなどの水産業、サトウキビや津堅にんじんなどの農業が盛んに行われている。

うるま市は「もずく」の生産量日本一

全国のもずく生産の約9割が沖縄県。
その中でもうるま市勝連地域は沖縄県内もずく生産の約4割の水揚げを誇る。

伝統文化が生きる地域

【出典】勝連漁業協同組合

- 「闘牛」: 2019年10月19日『闘牛のまち』宣言をした。
- 「肝高の阿麻和利」: 地域の中高生が演じる現代版組踊。
- 「エイサー」: 沖縄伝統芸能の踊り。各地域の青年会により継承。

豊かな自然環境

「果報バンタ」: 沖縄方言で「幸せ岬」を意味する宮城島の絶景スポット
朝日、豊かなサンゴ礁やマリンスポーツに適した環境

観光資源

- 「勝連城跡」: 2000年にユネスコの世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の1つとして登録された。
- 「海中道路」: 沖縄本島と「浜比嘉島」「平安座島」「宮城島」「伊計島」の4つの島を結ぶ全長約5kmの橋。

【出典】うるま市観光物産協会 公式WEBサイト



もずく生産の様子



闘牛大会



果報バンタ



海中道路

【写真出典】
勝連漁業協同組合、
うるま市観光物産協会 公式WEBサイト、
うるま市公式ホームページ

観光における問題

(1) 来訪者数が少ない

沖縄県入域観光客数は増加の一途を辿っている(コロナ禍を除く)一方で、うるま市来訪の割合は約1割と伸び悩んでいる。

指標	単位	2016 H28 年度	2017 H29 年度	2018 H30 年度	2019 R1 年度	2020 R2 年度
沖縄県入域観光客数(沖縄県より)	人	8,769,200	9,580,000	10,004,300	9,469,200	2,583,600
うるま市へのリピート率(県外観光客)(うるま市より)	%	30.9	61.7	61.3	58.7	58.7
沖縄県入域観光客のうち、うるま市来訪の割合(うるま市より)	%	13.9	9.7	10.5	10.7	10.5
主要観光施設の来場者数(勝連城跡・あやはし館)(うるま市より)	人	355,051	353,079	333,075	317,357	154,412
スポーツコンベンション事業実施による経済効果(うるま市より)	千円	—	—	—	27,128	36,250

【出典】第2次うるま市産業振興計画

(2) 宿泊者数が少ない

沖縄県内の地域別宿泊者数(家族)では、2024年度は38,809人となっており、観光客の宿泊先選択肢に入っていない。

1位: 恩納村3,205,058人

2位: 那覇市886,341人

3位: 名護市688,739人

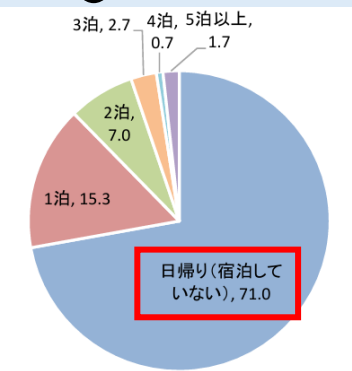
沖縄本島の地域別宿泊者数上位3位は、いずれも西海岸に位置する市町村が占めている。



(3) 「日帰り型」や「通過型」の観光が多く、宿泊日数が少ない

うるま市内への泊数に関するアンケート調査では、日帰り(宿泊していない)が71.0%と最も多く、次いで1泊が15.3%、2泊が7.0%、3泊が2.7%となっている。

来訪者が少なく、「日帰り型」や「通過型」の観光客が多いことから、滞在期間が短いことがうるま市観光の問題



【R4年度県外観光客 (n=300)】

【出典】RESAS観光マップ・宿泊者分析(観光予報プラットフォーム推進協議会)

約7割の県外観光客が日帰りという現状

【出典】第2次うるま市観光振興ビジョン

要因考察

市町村間周遊数(上位20位)
2024年度計(4~3月)

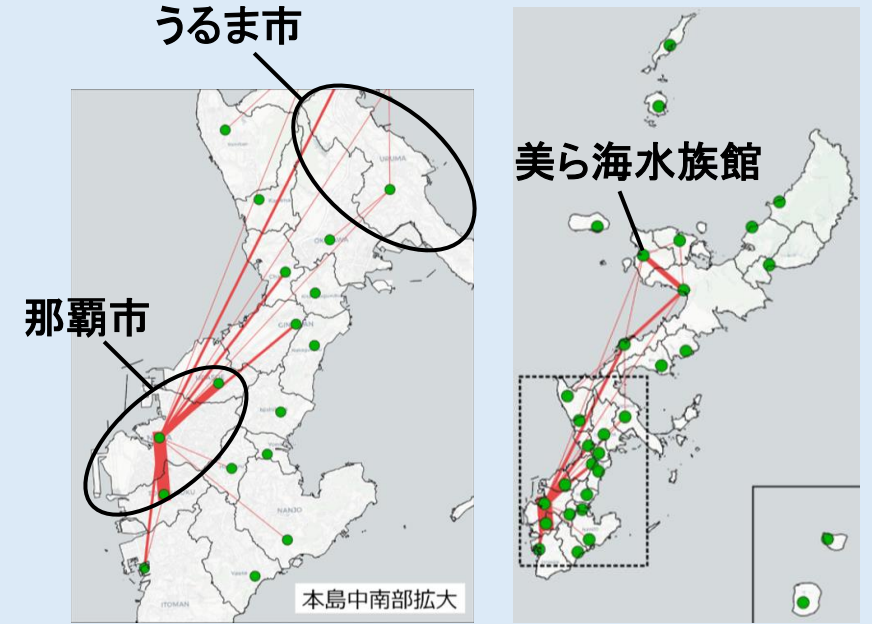
(1) 沖縄本島中部東海岸という立地

沖縄観光の主要な移動経路として西海岸を通る国道58号線が利用されている。
(国道58号線はうるま市を通過していない)

西海岸に位置する主な観光スポット

国際通り、首里城公園、美浜アメリカンビレッジ、海洋博公園・美ら海水族館など
沖縄を代表する有名観光スポットが西海岸沿いに集中。

那覇市と北部地域の間位置するうるま市
両エリアへ向かう通り道→宿泊よりも経路として利用されることが多い。



【出典】沖縄県 国内観光客行動歴分析レポート2024年度

沖縄の観光導線から離れており、立地の不利さが周遊数の低さに繋がっている。

(2) 季節型観光

「海中道路」や「果報バンタ」などの絶景スポット→天候の影響を受ける。
青年会による「エイサー」は旧盆や祭りなど行事のみ鑑賞が可能。
「闘牛」は年間約20回開催される闘牛大会での観戦が可能。
→時期の影響を受ける。

赤く細い線が
那覇市とうるま市を
結んでいる
↓
両エリア間を移動する
観光客は少ない

赤く太い線が
那覇市と
美ら海水族館を
結んでいる
↓
多くの観光客が
両エリア間を移動

多くの魅力があるものの、観光地として整備された場所が少なく、
天候や時期の影響を受けるため、年間を通して安定した観光需要を生み出す通年型観光が重要。

要因考察と解決策の方向性

(3)知名度の低さ

多くの魅力があるものの魅力が伝わっておらず、知名度が低い。

近年のPR活動

- ・うるま市を舞台にした漫画作品 **聖地巡礼イベント**
- ・沖縄ファミリーマートとの**コラボ商品の開発**(期間限定販売)
- ・公式YouTubeチャンネル『沖縄県うるま市公式』
うるま市出身アーティスト『HY』を起用。うるま市の魅力を映像で発信。
- ・『あやはし海中ロードレース大会2026』 **日本初のポケモンラン開催**

企業やアーティスト、漫画作品とのコラボ⇒話題性を生み出している。
市が力を入れて魅力発信しているものの、知名度が低い現状。



『沖ツラ』
聖地巡礼イベント



日本初開催
ポケモンラン

**コラボやSNS等を活用した
継続的な情報発信が重要**

うるま市の目指す将来像

来訪者の滞在期間を延ばし、
観光産業による地域の活性化を図る。

通過型観光・日帰り観光から
滞在型観光へ転換



ポイント

「滞在の動機」
&
「過ごし方の多様化」

解決策の方向性

**まだまだ知られていない魅力を発信していくと同時に、
滞在期間を延ばすためのポイントとなる「滞在の動機」と「過ごし方の多様化」を踏まえ、
天候や時期に左右されない観光コンテンツを拡大していくことが重要。**

【写真出典】
うるま市公式ホームページ、
うるま市観光物産協会 公式WEBサイト

企画コンセプトの仮説

地域の文化資源を活用した
新たな体験型観光コンテンツ

沖縄の伝統文化「ハジチ」を活用したタトゥーツーリズムの提案

ツーリズムとは

主題を持った観光や旅行を意味する言葉。

旅行スタイルの多様化により、エコツーリズムやヘルスツーリズムなど様々な観点に注目したツーリズムが人気を集める。

タトゥーツーリズムとは

「伝統的入墨」をテーマに、その土地特有の文化・技法・デザインを求めて訪れる旅行を指す造語。

【出典】訪日ラボ

タトゥーツーリズムの先行事例 フィリピン ブスカラン 通称タトゥー村

世界最高齢の現役女性彫り師 ワン・オド(Whang-od)氏(108歳) フィリピンの伝統的なタトゥー文化「バトック」彼女に施術してもらうため世界中から観光客が訪れている。観光収入は村の生活や文化に変化をもたらした。

【出典】VOGUEJAPAN

海外ではタトゥーを活用した観光が発展

→沖縄の伝統入墨文化「ハジチ」を活用し、沖縄県うるま市を活性化することはできないだろうか

- ①地域による入墨の価値観の違い
- ②時代による入墨の価値観の違い(日本)
- ③現代の入墨に対する社会的規範
- ④ハジチ施術者への取材
- ⑤ハジチの現代的解釈

以上の5つの視点から考察する

タトゥーに対する地域による価値観の違い

日本

- ・反社会的勢力との結びつき→社会的イメージはあまり良くない。
- ・ジムや温泉・プールなどでの入墨規制
→一般社会に受け入れられていない現状
- ・若者の間ではファッションの一環として施すケースが増加

アジア

- ・タイ:「サンクン」と呼ばれる仏教的な入墨
宗教的な加護を受ける目的で施される。
- ・インド・中東:植物の葉を使用したヘナタトゥー
- ・中国・韓国:日本と同様に社会的な偏見が強い傾向
一部の若者の間で人気

欧米

- ・個人のアイデンティティや自己表現の手段
- ・デザインや技術が多様で様々なスタイルが存在する。
- ・ポリネシア・マオリ:身分や戦士としての部族の誇りを示すものとして発展

項目	日本	アジア	欧米
歴史的背景	罪人の刑罰、ヤクザ文化	宗教、文化	アイデンティティ、自己表現
社会的イメージ	反社会的な印象が強い	一部地域では偏見がある	一般的に受け入れられる
デザイン	和彫り(伝統的な模様)	多様(サクヤン、ヘナタトゥー)	多様(トライバル、リアリスティック)
法規制	露出禁止の場所が多い	比較的自由	比較的自由
若者文化	ファッションとして徐々に浸透	一部の若者で人気拡大	広く受け入れられる

【出典】日本リスク管理センター株式会社

タトゥーに対する価値観は、各地域によって異なり、世代間でも違いが見られる

日本におけるタトゥーに対する 価値観の時代による移り変わり（江戸～昭和後半）

江戸時代

歌川国芳が『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』を描き、中国の小説「水滸伝」の英雄の全身に入墨を入れたことがきっかけ→**現代入墨の誕生・流行へ**

幕末

入墨の禁止 理由:無傷の者が総身に彫り物をするのは恥すべきことであり、心得違い。
→一時、江戸市中から姿を消すが、職人たちに愛好されており、息を吹き返す。

墨刑:耳そぎ、鼻そぎの身体刑に代わる名誉刑として刑罰の一つとして組み入れられる。

明治時代

市中の入墨と刑罰の入墨 双方の禁止・廃止→**入墨そのものが禁止**となった。

太平洋戦争後

警察犯処罰令が廃止→軽犯罪法が施行

→入墨は規制されなかったため、**近代を通して続いた入墨禁止令は撤廃**

ヤクザ映画ブーム:「入墨＝ヤクザ」という印象を確立

タトゥーマシンの導入:西洋風のタトゥー技術「洋彫り」が伝来

昭和後半

洋彫りを手掛けるタトゥースタジオの増加やタトゥー専門店の独立



通俗水滸伝豪傑百八人・
浪裡白跳張順



高倉健演じる玉井金五郎

【写真出典】東京国立博物館、「日本侠客伝昇り龍」(1970年)

【出典】山本芳美「文身禁止令」の成立と終焉-イレズミからみた日本近代史-「政治学研究論集」第5巻, 1997年2月28日, 87-99頁. 山本芳美「日本みやげ」としてのイレズミ-十九世紀から二十世紀初頭における外国人観光と彫師『日本研究』2021,70項.

日本におけるタトゥーに対する社会的規範

(1) 公共施設の制限

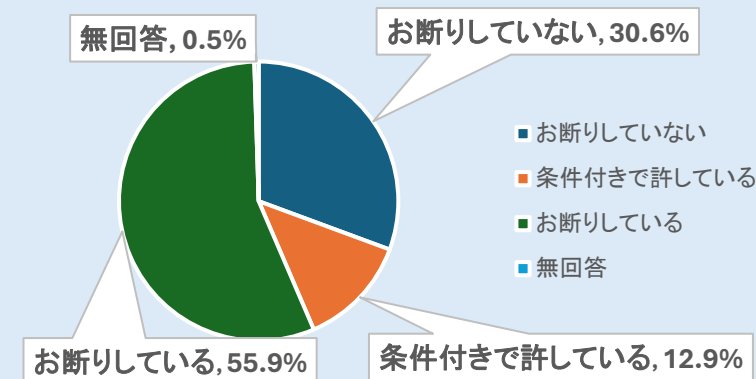
入浴施設の利用拒否

→タトゥーが見える部分を隠して入浴することや周りに配慮することが求められる。

【出典】観光庁によるアンケート調査(2015)

『入墨(タトゥー)がある方に対する入浴可否のアンケート結果について』

全国のホテル・旅館約3,800施設を対象とし、
そのうち約600施設(約15%)から回答が得られた。



半数以上の施設が
入墨を施している方の入浴をお断りしている

(2) 法律

青少年保護育成条例

「18歳未満に対してのタトゥー・入墨、刺青の施術」禁止

(3) 就職・仕事面での不利

公務員・特に警察官は基本的に認められていない→反社会的なイメージと結び付けられる可能性があるため

(4) 外国人観光客とのギャップ

ニュージーランドの先住民族、マオリの女性が民間の入浴施設を訪れた際、顔に施したタトゥーを理由に「入墨を施している方の入場はお断りしている」として利用を拒否され問題になるなど、トラブルに発展している。

日本におけるタトゥーに対する社会的規範

(5)世代間の違い

ファッションや個性として、若者層を中心に受け入れられつつある。

日本

著名人がタトゥーを公開。タトゥーシールがトレンドになる。

ファッションとしてのタトゥーに関心が集まる。

韓国

K-POPアイドルを筆頭に著名人がファッションとしてタトゥーを施す。

→若者の間でも広がる。

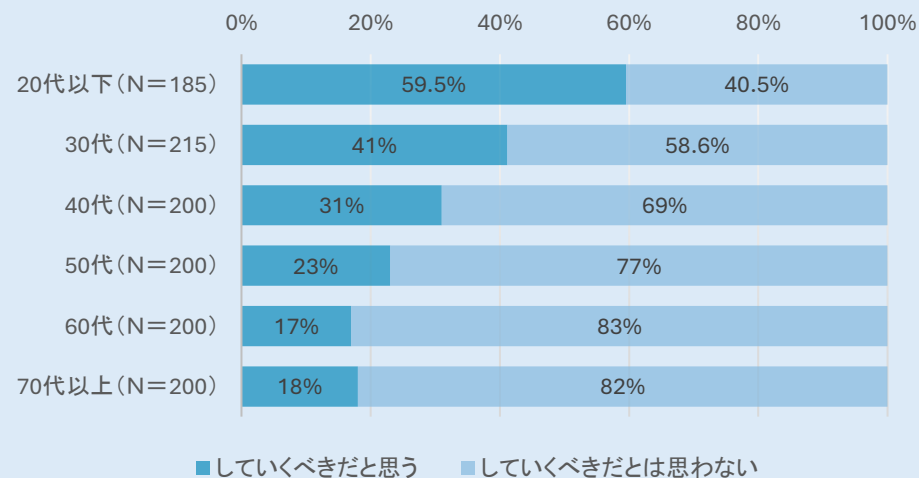
日本トレンドリサーチによる調査

『入墨・タトゥーについて今後、規制を緩和し、ファッション・趣味などとして、もっと一般的なものにしていくべきだと思うか』

30代以上は過半数以上が「していきべきだとは思わない」と回答した。その一方で、20代以下は約6割が「していきべきだと思う」と回答した。その理由には「多様性を考えるきっかけになる」「ファッションの一部」といった声が挙がった。

タトゥーに対する規制や刑罰、反社会的なイメージを背景に制限やマナーとして現代の日本でも悪印象を持つ人が多い。しかし、グローバル化やSNSなどの影響から若者を中心に価値観が変化しつつあり、規範そのものが変化の途中にある。

入墨・タトゥーについて今後、規制を緩和し、もっと一般的なものにしていくべきだと思いますか？
(年代別、N=1,200)



現代施術者へのインタビュー

ハジチを専門に施術を行う女性施術者にインタビューを行った

インタビュー内容

フィリピン タトゥー村の事例について

- ・観光用の入墨と伝統的な入墨は分けられている。
伝統的な入墨はその土地にルーツを持つ人にものみ施術

→「ハジチ」も沖縄にルーツを持つ方のみに行っている。

世界の共通認識 伝統的な入墨は「与えるもの」

- ・誰にでも施術を行うことは文化が壊れてしまう可能性がある。
- ・一度入れたら消えないもの

ハジチ復興の進捗状況について

- ・ハジチの復興はまだ始まったばかり
- ・外からの視点や価値観、評価に依存してこの伝統を取り戻していくのではなく、この文化の当事者である自分たちの新しい価値観で再び取り戻すことが重要ではないか
- ・沖縄の人でもハジチに対して悪印象を持つ人もいる。

ハジチを学ぶ機会をつくったほうがいいと思うものの、現代社会の入墨・ハジチに対するイメージや海外のタトゥー事情との違いを踏まえると今はまだ難しいのかもしれない。慎重に検討する必要があると思う。

お話を伺い、海外と日本の取り巻く環境の違い、観光と伝統的な入墨の相性の悪さ、ハジチ復興の進捗状況を理解した。ハジチを観光対象化する難しさを感じたとともに、懸念点も明らかとなった。

ハジチの現代的解釈

(1)アイデンティティ 沖縄に自分のルーツがあることを示す手段の一つ

沖縄から海外への移民

- ・19世紀から20世紀
- ・ハワイや南米、東南アジアなど多くの国に渡った。

海外に住む沖縄出身者やその子孫にあたる人(県系人)

推計約42万人

『世界のウチナーンチュ大会』
海外移民など沖縄にルーツを持つ
海外の沖縄県系人を招待して開催。



沖縄にルーツを持つことを
誇りとして再認識する場

沖縄にルーツを持つ人にとって「ハジチ」は
先祖との繋がりを可視化することができる
手段の一つ

女性施術者のお客様の割合

沖縄在住 ・ 海外在住
沖縄県民 ・ 沖縄県系人

5 : 5

(2)不正確な解釈

禁止令という歴史を辿った背景、また、日本の入墨の歴史(刑罰や反社会的なイメージ)と混合し、現代社会には悪印象を持つ人も少なくない。

(3)継承・保存の重要性

- ・1990年代には完全に消滅したとされている。継承され続けた伝統文化とは異なり、一度復興する段階を挟む必要がある。
- ・また、ハジチを知ることができる場も用意されていない。「失われた文化」を記録し、継承・保存していく取り組みが必要。

〈女性施術者〉

海外から施術のために沖縄を訪れる人もいる。
限られたコミュニティー(沖縄にルーツを持つ人)の中
でもうたウーツーリズムになっているのかもしれない。

具体的な施策案

ターゲット

- ・沖縄の伝統文化に興味がある人
- ・タトゥーに違和感を持たない人→若者 外国人観光客 在日米軍など

ハジチミュージアム 所要時間:60分

- ・ハジチに関する資料を展示・解説。ハジチを知ることができる場の設立。
- ・ハジチを理解してもらうために、ハジチを取り巻く複雑な沖縄の歴史、社会的背景などを交えて解説。
- ・報告書をもとにした体験談を紹介。当時の女性達の想いを後世に残し、継承。
- ・文様や意味の地域別比較 ・針やインクの展示 ・ハジチをテーマにした琉歌の紹介 など
- ・外国人観光客や在日米軍向けに多言語解説・デジタル展示

ハジチグッズ

- ・写真集やハジチに関する書籍の販売
- ・ハジチの文様を活用した他の沖縄伝統文化とのコラボ商品

施術される体験 所要時間:30分

タトゥーシールを使用して、ハジチの疑似体験をすることができる。フォトセッションも同時に行い、琉球らしさを再現する。

施術する体験 所要時間:30～60分

ハジチャー(針突師)側の体験
手の形をしたシリコン素材や紙に、針やペンを用いてハジチを施すことができる。

資金源について

- ・クラウドファンディングの活用
- ・行政による支援金・補助金の活用
- ・うるま市観光振興ビジョンに組み込む

※体験型コンテンツについて

「伝統的入墨は与えるもの」という見方もある。そのため、若い女性の文化であるハジチをタトゥーシールであっても年齢性別問わず行ってもよいのか、ルーツを持たない人に行ってもよいのか慎重に検討する必要がある。

期待される効果と懸念点

期待される効果

(1)新たな観光地の創出

新たな観光コンテンツの創出により、観光の動機が生まれ、うるま市への来訪が期待される。観光客が来訪することで、**観光消費額の増加**や**観光体験の質の向上**などが見込まれる。

(2)ハジチ文化の再評価・継承

ハジチを学ぶことができる場の設立。
ハジチ文化の認知度向上が期待される。
認知度が向上することで、保存・継承に繋がる。

(3)通年型観光

季節型観光という課題に対し、ハジチを活用したアウトウツーリズムを推進することにより、**年間を通じた安定的な観光を図ることができる通年型観光**が期待される。

懸念点

(1)現代の入墨規制や倫理的配慮

特に日本ではアウトウーに対する偏見や入墨規制があり、**倫理的な配慮**が求められる。また、沖縄の人でもハジチに対して悪印象を持っている方もおり、地域への理解をどのように得るかが懸念点として挙げられる。

(2)復興段階にある伝統文化

継承されてきた文化とは異なり、一度姿を消し、復興途中にある伝統文化である点に注意が必要。入墨やハジチに対する社会の悪印象もあり、ハジチを知る場所も整備されていない。沖縄の人もよく知らない伝統文化を観光資源化するこの取り組みは、適切なタイミングを見極めつつ、段階的に進める必要がある。

どのように地域の理解を得るか・先行事例

『入墨という身体記号は、それを有する人びとの歴史や民族文化の産物である。

それについての認識内容も認識する側の歴史的、民族的背景によってことなる。

そこで入墨は、先ずそれが存在している地理的歴史的な脈と、他方それが機能する民族文化、集団的アイデンティティ、性役割、地位シンボル、個人的嗜好からとらえなければならない。』

【出典】山城 博明・波平 勇夫
新版 琉球の記憶 針突

当時のハジチ女性の価値観を理解するには、現代社会に生きる私たちの価値観と切り離して考える必要がある。

価値観の形成過程を分解して説明する必要性

当時の女性達の価値観
女性の象徴・美しい・憧れ

明治政府による入墨禁止令
規制の対象
ハジチに対する悪印象の形成

日本の入墨文化とのイメージ混合
規制や刑罰・反社会的なイメージ
入墨に対する悪印象の形成

現代にも続く
ハジチ・入墨に対する悪印象

現代社会の入墨に対しての解釈は個人の自由である。

しかし、ハジチを理解する場合、後世に形成された価値観の中で生きていること、社会の価値観の変化で姿を消した文化であることを前提に学ぶ必要がある。

当時の女性がハジチに込めた願いや祈り、本来の「ハジチ」という文化の理解と尊重・継承に繋がると考える。

先行事例 ハジチをテーマにした近年のイベント

2019年10月 沖縄県立博物館・美術館 特別企画展「沖縄のハジチ、台湾原住民族のタトゥー 歴史と今」

2022年8月 海洋博公園 海洋文化館 企画展「ハジチとタトゥー ～復興か？創造か？～」

2025年2月 海洋博公園 海洋文化館 「琉球弧のイレズミ・ハジチ体験」

【出典】沖縄県立博物館・美術館、海洋博公園

提案内容のまとめ

目的 沖縄県うるま市への来訪の動機を生み出し、観光産業による地域の活性化を図る。
沖縄の伝統文化「ハジチ」に対する正確な解釈を広め、認知度向上をはかり、保存・継承に繋げる。

現状の問題

来訪者が少なく、「日帰り型」や「通過型」の観光客が多い。
滞在期間が短い。

問題の要因

- ・沖縄本島中部東海岸という立地
- ・季節型観光
- ・知名度の低さ

解決策の方向性

継続的に魅力を発信していくと同時に、
滞在期間を延ばすためのポイントとなる「滞在の動機」と「過ごし方の多様化」を踏まえ、
天候や季節に左右されない観光コンテンツを拡大していくことが重要

地域の文化資源を活用した新たな観光コンテンツの提案

沖縄の伝統文化「ハジチ」を活用したタトゥーツーリズム

ハジチミュージアム ハジチグッズ

ハジチ疑似体験 フォトセッション

ハジチの現代的解釈

- ・アイデンティティ
- ・不正確な解釈
- ・継承・保存の重要性

期待される効果

- ・新たな観光地の創出
- ・ハジチ文化の再評価・継承
- ・通年型観光

懸念点

- ・現代の入墨規制や倫理的配慮
- ・復興段階にある伝統文化

価値観の形成過程を説明



正確な解釈

結論

沖縄の伝統的な入墨文化「ハジチ」を活用したタトゥーツーリズムを推進することで、
沖縄県うるま市への来訪の動機を生み出し、観光振興と伝統文化継承の両立を実現する新たな地方創生政策アイデア